

「行革甲子園 2018」エントリーシート

【取組の内容】

1 取組事例名

市民交流センター（ニコリ）の整備・運営について

2 取組期間

平成23年度～（継続中）

3 取組概要

蕪崎駅前の旧商業施設を、新たな市民文化を創造する拠点施設「市民交流センター」として活用を行った。施設には「多くの市民が集い、広範囲な分野において市民が交流できる場」となるよう、医療・保健・福祉・教育・サービス・飲食系を中心とするテナントを入居させ、また、施設管理については指定管理者制度を導入し運営を行っている。

また、平成28年度には、中・高校生が自ら様々なイベントを企画・実施するための拠点として「青少年育成プラザ」を地下1階に整備した。

様々な機能を一か所に集約したことと、駅前という立地条件の良さも手伝い、センターの利用者数は年々増加しており、市民満足度も上がっている。

4 背景・目的

JR蕪崎駅前施設（旧蕪崎ショッピングセンタールネス）が平成21年3月をもって営業を終了した。所有者より市に施設売却の要望があり、また、当該施設は交通結節点であるという立地条件から、新たなまちづくりの拠点として市の財政事情や将来の財政負担を考慮するなかで、利活用の方向性について検討委員会・市民アンケートの実施等検討を行った。

整備の基本的な考え方として、市の玄関口という立地を活かし、市全域の新たな生涯学習機能を核とした複合施設として整備を進めた。

5 取組の具体的内容

施設利活用検討委員会の設置やパブリックコメントを重ね、市民主体の整備を行った。
整備にあたっての考え方や、それを踏まえた実際の具体的な利活用方法は次のとおりである。

【市民交流センター整備にあたっての考え方】

- ・既存建物のフロアの間取りを有効に活かした施設配置とするなど改修コストの低減に努める。
- ・高齢者・障害者を含め市民だれもが安心して利用できるユニバーサルデザインに配慮すること。
- ・立地条件を最大限に活かし、市民が主体的に文化活動・生涯学習活動に取り組み、世代を超えた交流を楽しめる、中心市街地に集う人々が気軽に立ち寄りたくなる拠点の創出を図ること。

【具体的な利活用方法】

- ①コミュニティの拠点・・・人と人、地域と地域の情報交換や文化・芸術などを通じた幅広い交流ができる場
(ギャラリースペース・スタジオスペース・フリールームスペース等)
- ②生涯学習の拠点・・・気軽に立ち寄れ、誰もがいきいきと学び創造できる生涯学習の場
(図書館スペース・郷土の偉人スペース・公民館スペース)
- ③乳幼児・児童健全育成の拠点・・・子ども達が保護者と一緒に健康的で安全に集うことができる場
(育成スペース・青少年育成スペース)
- ④立地条件を活かした人の回遊創出の拠点・・・市の地場産業や観光情報の発信拠点としての場
(観光案内スペース・物産販売スペース・飲食スペース)

【事業経過】

- 平成21年3月 蕪崎ショッピングセンタールネス営業終了
4月～6月 蕪崎駅前施設活用策についての市民アンケート実施
6月 蕪崎駅前施設利活用検討委員会設置
9月 (仮)蕪崎市民プラザ基本構想に関する提言書答申
10月～11月 市民交流センターマスタープランパブリックコメント実施
11月 市立図書館設置構想に関する要望書答申
マスタープランパブリックコメントに対する「市民の考え方」公表
- 平成22年1月 土地及び建物を取得
2月 市民交流センター基本概要案パブリックコメント実施
4月 基本概要案パブリックコメントに対する「市民の考え方」公表
10月 整備工事着工
- 平成23年7月 整備工事竣工
愛称・ロゴデザイン決定
9月 オープン
- 平成26年3月 市民交流センター総来館者数100万人達成
平成28年10月 市民交流センター地下「青少年育成プラザ」オープン

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

【特徴等】

①市民の主体的な生涯学習活動・文化芸術活動を幅広く支える拠点づくり

図書館を中心に、郷土の偉人に関する著作、資料展示等、市民の生涯学習、文化・芸術活動などの各機能を集約し、相互に連携させることにより、幅広い世代の多様なニーズに柔軟に対応できる市民参加による活動拠点づくりとして進めた。

②多様な世代が集い、交流し、コミュニティ活動を楽しむことができる拠点づくり

あらゆる世代の人々が気軽に立ち寄れる憩いの場を提供し、いつでも様々な鑑賞・発表などの文化的な交流、コミュニティ活動を楽しめる施設として心豊かな市民生活を実感できる拠点づくりとして進めた。子育て世代については、子どもと親と一緒に伸び伸び遊べ、交流できる子育て支援の拠点づくりを進めた。

また、他地域から葦崎市を訪れてみたいくなるような魅力ある施設として葦崎市の歴史、山岳、景観等の観光情報や特産品などの発信拠点として整備した。

平成28年度には、中・高校生が自ら様々なイベントを企画・実施するための拠点として「青少年育成プラザ」を地下1階に整備した。

③歩いてまちの魅力に触れられ、まちなかのにぎわいを創出する拠点づくり

市民ニーズに基づくテナント（医療・飲食）を配置し、集客性を高めるとともに、本町通りの旧宿場町のたたずまいを保存するなどの、歴史的空間や文化を融合させたまちづくりの方針と整合を図り、施設利用者がまちなかを歩いてみたいくなる、あるいはまちなかを訪れた人々が市民交流センターに立ち寄りたくなるような、まちなかのにぎわいを創出する交流拠点形成を図った。

7 取組の効果・費用

【取組の効果】

世代を超えた多くの人々が気軽に立ち寄れる憩いの場として、また、様々な交流やコミュニティ活動を楽しめる場、生涯にわたって学べる場として、多くの人々が集うまちなかの交流拠点としての役割を果たしている。さらには、ふるさと偉人館や葦崎大村美術館サテライトスペース、観光案内所、地域特産品コーナーなどとの連携により、地域情報の発信基地として市のPRにも効果を発揮している。

総入館者数（人）

平成23年度（9月～）	216,476人
平成24年度	393,853人
平成25年度	401,689人
平成26年度	402,509人
平成27年度	461,947人
平成28年度	478,949人
平成29年度	524,180人

【費用】

総事業費（図書館システム構築費・備品購入費は除く）

土地・建物取得費	545,774,978円
工事費	1,199,215,500円
設計・監理業務委託	50,085,000円
合計	1,795,075,478円

（平成21～平成25年度：社会資本整備総合交付金・補助率40%により実施）

地下施設改修工事費（平成28年度）

改修工事費 232,800,000円

市民交流センター施設管理費（平成30年度指定管理料） 69,951,000円

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦勞した点）

施設には様々な団体が入居しているため、スムーズな施設運営を行うためには情報の共有化が重要になるが、全体を管理運営する者（市民交流センター指定管理者）を中心に行政担当者も入れた「運営協議会」を組織し、毎月定例会を開催することにより、入居団体や市民の要望把握等を行っている。

また、平成28年度に市民アートギャラリーや音楽スタジオ、市民活動支援室を地下1階に整備したように、市民ニーズの要望を反映するような施設機能の充実を図ると共に、入館者が増えるような「自主企画」事業の実施を施設入居者には求めている。

9 今後の予定・構想

平成28年度に改装した地下1階の、「青少年育成プラザ」・「市民アートギャラリー」の利活用を更に促進し、入館者数の増加を図る。

また、市民交流センターの地下は、災害時における防災倉庫の機能を備えているが、今後は市民が参加した災害訓練の実施など、防災面の機能の検証が必要かと思われる。

10 他団体へのアドバイス

図書館、公民館、子育て支援センター等一か所に集約することにより、市民の利便性が上がると共に、各施設の連携によりイベントを企画し易いというメリットがある。企画したイベントにも多くの参加を見込むことができる。

11 取組について記載したホームページ

<http://www.nirasaki-nikori.jp>